

松 風

令和5年11月17日発行
発行 富山県立富山学園

究極の寄り添い

教頭 松井 智史

松風分校が富山学園内に設置され今年で十年目になります。これまで松風分校の教育活動を支えてくださったすべての方々に感謝を申し上げるとともに、今後ともお力添えをくださりますようお願い申し上げます。

さて、松風の朝は「気をつけ」「礼」「おはようございます！」の挨拶が始まります。何気ない朝の光景ですが、ここに松風の教育が集約されています。

「語先後礼（「ごせん」これは目を見て発声し、その後には礼）」「おはようございます」日本の伝統的な礼法の基本である「語先後礼」を当たり前に行っているのが、松風の子どもたちです。そして、その挨拶を明るく大きな声で受ける園長先生の笑顔で、学園全体が安心感に包まれ一日がスタートします。

・ラジオ体操…**全員**が指先まで伸ばして行います。

・授業…**全員**で授業に取り組みます。（分校職員が個に応じた内容を指導し、学園職員が見守ったり、子どもと一緒に活動したりするなど共に学びます）

・清掃…**全員**で時間いっぱいどことんきれいに掃除します。
・作業…**全員**で環境整備を中心に働きます。
・スポーツ…**全員**が、今、自分ができることを限界まで出し切ります。

※この後、規則正しい寮での生活が行われます。
松風の一日は、「**全員**」で「その日」「その時」を大切にし、自分ができることを「出し切る」のです。

私は、長い間、教育者として子供たちに「寄り添って」きたつもりでした。しかし、松風に来て、この「寄り添う」ことについて改めて考えさせられることとなりました。

「**師弟同行**（していどうぎょう）」
「**師も弟子も同じ行い**」
の中で学び合っていくという意味
先に述べた「**全員**」、これは子ども

も大人も全員という意味です。立場は関係なく、一人の人間として向き合い学び合う、究極の「寄り添い」をここ松風で目にしたのです。教育者として、大人として、人間として大切な姿に今さらながら気づかされました。

子どもたちは、今、毎日を全力で過ごすことで精いっぱいだと思います。そんな子どもたちが大人になり、誰かと「寄り添って」生きていくときに、学園での生活の意味を「よい思い出」として思い出してくれるのではないかと信じています。

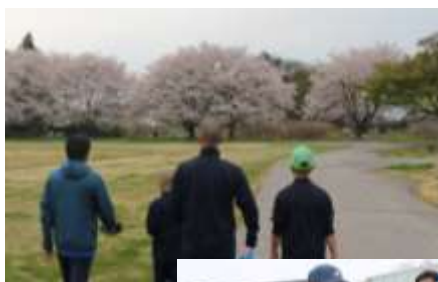
人と人が「寄り添う」究極の場所「松風」で、勤務できる喜びを味わいつつ、私自身全力を出し切り、まだまだ究極の「寄り添い」には至らなくとも、子どもたちができるだけ「近くで」「ともに汗を流し」生活していきたいと思っています。



観桜会

四月五日、新任式を終え新たな職員を迎え、最初の学園行事である観桜会で、今年度もスタートを切りました。雲ひとつない青空の下、敷地内の満開に咲き誇る桜の花を子どもたちは、職員と一緒に見て歩き、ゆったりとしたひとときを過ごしました。

ランチルーム前では、今年度の抱負を各寮長から子ども一人一人が発表しました。



(子どもたちの抱負発表より)

「昨年できなかったことを今年できるようにする。」「後輩達に良い姿を見せられるように、生活でもスポーツでも、お手本となるようにする。」「の二つを今年度の目標

として、意識して生活したい。

(R・T)

「自分がすべきことをきちんとすること。」「昨年の経験者としてのアドバイスをかけてあげること。」「受験生として、勉強にも力を入れること。」

(A・O)

前に立って発表するのがとても嫌だった。嫌なことを乗り越え、発表することができた。(N・S)と子どもたちは、心新たに決意していました。私たち職員は、子どもたちが決意した目標に向かい、『頑張りたい』と自ら育とうとする姿を見守り、適切なアプローチをしていきたいと思えます。

会食のバーベキューでは、準備から後片付けまで、それぞれが役割をもち男女に分かれ作り、職員と焼き肉おにぎり焼きそばをお腹いっぱいいただきました。調味料は、入れすぎず、少なすぎずと調整するのが難しい」と話しながらも、あちらこちらから聞こえてもにぎやかでした。子どもたちのにこやかな表情や職員と交流する姿を見ることができました。

午後からは、分校教職員の方も交わりソフトボールの交歓試合が行われました。バットを振り切り、

ボールを追いかけ、桜の木々に囲まれたグラウンドで、体を動かすことを楽しむ時間を過ごすことができました。日本の国花桜、そして大空の下での児童と職員の交流が自然と深まる会食やスポーツの行事を大切に行けたらと思います。

(朝倉)



富山学園農場

農場での活動はおよそ春と夏と秋と冬に分けられます。春から夏にかけては暑さが厳しく、秋から冬は寒さや雪が厳しい、それは自然の恵みを受けている以上当然のことです。ですが今年度はニュー

スでも再三報じられたように、特に夏の暑さが尋常ではありませんでした。

夏は特に雑草の伸びが速く、すぐに生い繁ってしまいました。農場での活動を主とする立山級の子どもと協力し、野菜の手入れや草刈りをしたことを強く記憶しています。

毎日コツコツ積み重ねた作業の甲斐もあり夏野菜は大成功でした。トマト、ナス、ピーマン、オクラ、スイカ、メロンなど、どれも美味しく食べられました。

季節は変わり、秋にはさつまい芋の収穫をしました。こちらも大成功で、大きいものが沢山収穫できました。現在は葉物野菜を多く育てており、蕪、白菜、大根などがいきいきと育っています。

この他にも春先にはイチゴを育て、試みとして食べる分とは別に来年の苗も育成しました。育った苗は今、畝に植え替えられ、元気に育っています。

来年度も子どもたちと協力し、育てる喜び、楽しさを感じながら美味しい野菜を作りたいと思います。

(荒木)



野球

今年も三月から野球日課が始まりました。スタートした時点で子どもの数は九名に満たさず、昨年度の野球を経験している子どもも多く退園している難しい状況でした。基礎体力作りで三月は学園近くの海岸通りをランニングするところから始めました。徐々に体力もつき始め、いざボールを使った練習に取り掛かるも、キャッチボールはあつちへこつちへとボールを投げるより走って追いかける時間の方が長い状況が続きました。他の施設から練習試合のお誘いがありました。チームとして試合に臨める体制ではなく、お断りさせていただくこともありました。

ただ、今年の子どもたちは、キヤプテンを中心にこつこつ真面目に取り組む力がとても強かったです。学園のある富山市は記録的な暑さに見舞われ、気温が三十度を超える日が毎日続き、幸か不幸か雨も降らず、大人も子どももへとへとになってグラウンドで汗を流しました。そのような状況でも、野球をすることが楽しく、日々上手くなっていく自分に自信を持つようになっています。ボールを上手く取れた時の笑顔、いい当たりを打った後のベースの上でのガッツポーズ。練習の成果を毎日少しずつ感じられました。

監督として野球をしていた日思い返すと、暑い夏の中、毎日休まず真つ黒けになりながら、打って、走って、捕って、喜んで、泣いて、疲れて、笑って、いじけて、様々な感情や表情を見せてくれる子どもたちに、癒しややる気、そして責任感を感じながらいっしょに時間を過ごすことができたことが、幸せだったのだなとあらためて感じています。



七月の北越四県少年野球大会は、二施設が人数が足りずオーブン参加となり、富山学園と新潟学園さんの一騎打ちになりました。試合は自分たちの野球をやりきることができ、優勝することが出来ました。勝つことも嬉しかったのですが、試合後に対戦相手の子どもから「試合楽しかったです、また富山学園と試合したい」と言っていたのを聞いた時のうれしさは勝利とは別の喜びがありました。対戦相手にそう思ってもらえる試合をした子どもたちを誇りに思います。

北越大会後も毎日、汗だくになりながら全国大会に向けて練習をしていましたが、残念ながら大会前日に体調不良者が出てしまい、出場を辞退しなければなりません。

でした。子どもたちのモチベーションの低下や生活が乱れることを覚悟しましたが、そんな心配をよそに子どもたちは日々の生活を乱れることなく過ごしました。あらためて子どもたちの成長に胸を打たれました。

今年が縁があつて十年ほど前の退園生が何人も野球の練習に参加し、手伝ってくれました。彼らと当時を思い返しながら話していると、「当時はつらいこともあったけど、今思い返しても楽しかったです」と言ってくれました。

今の子どもたちも全国大会には出場できず、悔しい思いをしたと思います。いつか退園し、どこかでそう思ってくれる日がくるといいなと願います。

最後に暑い夏を子どもたちと一緒に過ごし協力してくれた学園の先生方、本当にありがとうございます。また、分校の先生方、OB・OG・児相・外部職員の皆さま、応援して下さいました保護者の皆さまにも改めて感謝申し上げます。みなさんの協力がなければ子どもたちも、私もこの野球漬けの日々を過ごすことはできませんでした。

(小泉)

(子どもの感想)

大会当日は緊張と不安と楽しみとたくさん感情が混じっていました。開会式やシートノックが終わって学園の試合が始まりました。私は二番バッターで絶対に打たないといけないとばかり思って最初は自分のいつも通りのスイングができませんでした。二、三打席目はうれしすぎて全然覚えていません。でも、ファーストのライン際を抜ける当たりと左中間に打って自分でもびっくりしました。最後まで全力を出し切れたし優勝できてうれしかったです。閉会式の時に、あらためて優勝できたこと、打撃賞にえらんでいただいてめっちゃうれしかったし野球してよかったと思いました。(R・S)

夏期日課(男子寮)

夏期日課といえども、作業、自習(補習)、特別活動(文化的活動)、スポーツといった日々の日課をしっかり取り組みつつ、その合間を縫って夏の行事を楽しみながら、慌ただしくも充実した夏を過ごしました。「目の前のことに精いっぱい取り組む」、「その日一日の生活を大切に」。子どもたちに

いつも伝えていることで、私自身も富山学園に来てからその大切さを改めて感じているところです。それまでの生活の積み重ねがあるからこそ、夏の頑張りが秋に向けての成長につながり、夏期日課の行事が楽しい思い出になるのだと感じています。

頑張ったことの一つに野球があります。八月末に出場予定だった、「全日本少年野球大会」に向けて取り組んできましたが、直前で出場ができない事態となりました。

非常に残念な結果となりましたが、子どもたちは出場できなかったことを引きずらずに気持ちを切り替えて二学期の生活にスムーズに移行しました。子どもたちの成長を感じられる出来事の一つでも嬉しかったです。全国大会に出場して得るものや思い出となることはたくさんあると思いますが、思い通りに行かないことを通じて得られる成長や経験も大きいと感じました。



この文章を書いているのは秋です。夏から秋にかけての成長もたくさんありました。今は生活学習発表会に向けて疲れたり弱音を吐いたりしながらも、毎日の練習に取り組み前進しています。子どもも大人もいつまでも変わっていない成長しているのだと、子どもたちから教えて貰っている日々です。(稲垣)

夏期日課(女子寮)

女子寮の夏期日課は忙しいを目標に掲げて日課を組みました。作業をして、学習して、手芸して野球してと毎日忙しい日課となりました。

今年の作業は春に植えた小麦の脱穀、物干しの整備、コミュニケーションスペースの拡張、ひまわりの種の収穫、秋蕎麦の植え付け等やることがいっぱいになりました。

日々作業に追われながらも汗を

流しながら頑張りました。物干しの整備ではペンキだらけになりながらペンキ塗りをし、コミュニケーションスペースの拡張では、モルタルを使ってブロックタイルを固定する等体験したことないことにも挑戦しました。

手芸では水引きに挑戦しました。水引きを編んで小物やアクセサリを作りました。不慣れでしたが、みんなのめり込んでいました。

野球についても今年度もプレーヤーとして参加させてもらい、暑い中声を出し、汗を流しながら頑張りました。初めて野球をする子もいましたが、九人中三名がレギュラーとして試合に出させてもらえる程上手くなり前向きに取り組めました。

忙しかったこともあり、あっという間に夏期日課が終わった気がします。今時の女子は日焼け止めするためこがりとは肌は焼けませんでしたが、日課を終えた子どもたちは何となく逞しく感じ、いろんな活動への取り組みも前向きにしっかり取り組めるようになっていました。

後期もひまわりの後に何を植えるか、小麦を精米してパン作り、

蕎麦の収穫、蕎麦打ち等やることは目白押しです。自分がやりたいことを子どもたちも巻き込んでやっているのですが、子どもたちと一緒に楽しめたらうれしいです。ワクワクできる後半戦にしたいです。

(井澤)



夏祭り

八月二十五日、夏休み最後の日に夏祭りを実施しました。

まずは全員で準備に取り掛かります。男子はテントやバーベキューコンロの設営、女子は流しめん台の設営に一生懸命です。あつという間に準備が完了し、スイカ・メロン割り大会が始まりました。学園の農場で採れた小玉スイカやメロンは、狙うのがちよつと難しかったようですが、無事に割

ることが出来て、皆でおいしくいただきました。

焼きそば、流しめん、焼き鳥にかき氷。それから、餃子の王将「お子様弁当無料配布」事業でいただいた、餃子から揚げ、ウインナー、お弁当のごはんで作ったチャーハンも。調理を手伝ったり、好きなメニューを山盛り食べたり、ベンチに座っておしゃべりしたり、子どもたちも職員も、猛暑に負けずに楽しみました。

片付けを済ませ、皆でキャンプファイヤーを囲みながら、空が暗くなるのを待ったら、最後のお楽しみ花火大会です。手持ち花火を初めてする子もいたり、花火で受験合格祈願の文字を描いたり。夏の楽しい思い出の一日となりました。

(荒川)



(子どもたちの感想)

一番おいしかったのは流しめんです。途中でゼリーも流れてきて面白かったです。(Y・R) 久しぶりに火を見ながらゆっくりにできて楽しかったです。準備から片付けまでしっかりできたので、次も準備と片づけをしつかりやりたいです。(U・R)



海岸清掃

年二回実施されている海岸清掃は、一回目は六月九日に、二回目は十月二十七日に実施しました。

「無人ボックスの会」で活動されている地域の方々と一緒に、浜黒崎海岸のゴミ拾い、清掃を行いました。学園では、浜黒崎サイクリングロードをよくランニングしており、身近な海岸を美しくしようという一丸となって頑張りました。「無人ボックスの会」で海岸清



掃を長く続けている方から、海洋プラスチックごみの環境問題について教えていただきました。子どもたちも、ペットボトルなどのプラスチックごみ、流木などがたくさんあり驚いていました。また清掃活動を行うことができる会員の高齢化などを受け、こうした活動を担う人材の重要性についてもお話をさせていただきました。十月に実施した際は、清掃中急な雨風に見舞われ、短時間の清掃となりました。悪天候の中ではありましたが、互いに協力しながらごみ集めをしました。

学園での海岸清掃は「社会奉仕の心を養う」目的で実施しており、清掃のきれいな海岸を見ると達成感があります。これからも日々身の回りがあることに気を配り、地域の皆さんと地域のために活動していければと思います。(中村)

(子どもたちの感想)

一つのごみの山を終えるごとにやりがいや達成感がありました。この海岸清掃を通して環境や人のために活動する良さが分かりました。

(S・R)

清掃に参加して、色々な人や環境を守っていきたいです。海岸清

掃は大切だと思いました。(Y・R)



ほたるいかマラソン

十月八日、滑川市で開催されたほたるいかマラソン、三キロの部、十キロの部に出場しました。

九月から、長距離走の練習が本格的に始まりました。初めは三キロを走り切るのが精いっぱいのごどももいましたが、前向きに練習に取り組み、着実に体力と走力をつけてきました。タイムが伸びる事を楽しみながら、積極的に練習に取り組むこどもの姿がみられました。

大会当日は、いつもとは違う大会の雰囲気緊張しながらも、四名の子どもが入賞、自己ベストを更新した子どもも多数いました。走り切った子どもたちの表情からは達成感が見てとれました。(窪野)

(子どもたちの感想)

十キロの部に参加しました。タイムは四十一分二十六秒で、三位でした。嬉しかったし、努力のあったいい結果だったと思います。

(R・T)

人がたくさんいて緊張しました。色々な人が応援してくれたから元気ができました。応援してくれた人に感謝したいです。結果は三位に入れて嬉しかったです。次の駅伝大会に向けて、自分のペースで走り切れるよう頑張ります。(R・Y)



富山学園駅伝大会

十月一二日、園内駅伝大会を開催しました。全長十五、五キロのコースを五区間に分け、職員も含まれた三チームで競いました。

優勝チームと二位のチームとの差は四十五秒、最後まで目が離せない勝負となりました。

タイムへの意識、互いの声掛け、熱のこもった応援等、個人で走る

時とは違い、チームを意識している子どもたちの姿が多くみられました。

自己ベストを更新した子どももおお、気持ちの入ったいい走りをしていました。

子どもたちには、辛い練習を重ねて感じた達成感を忘れずに、今後のスポーツにつなげていって欲しいです。

(窪野)

(子どもたちの感想)

二区の区間賞をとれました。残念ながら区間新記録は更新できず、優勝もできなかったけど、チーム一丸となって二位になりました。これからのしんどい事があるかもしれないけど、自分の成長のために乗り越えていきたいです。

(R・T)

寮一丸となって、何かをやり遂げた事がとても嬉しいです。全体での目標を三分も縮める事ができてびっくりしました。皆で襷を繋いで、最後まで走る事が出来てよかったです。

(N・S)



善意を寄せてくださった方々

- ・生け花 毎月 (長崎様)
- ・間食寄付 (サクラ古河徳様)
- ・アイスクリーム・菓子贈呈 六月・十月

(無人ボックスの会 俣本様)

- ・菓子・スイカ贈呈 六・八月 (澤田グループ)
- ・ランチ・餃子弁当 八月 (餃子の王将)

《編集後記》

今年度より、新型コロナウイルス感染症が五類感染症になりました。行事も通常通り開催できることが増え、子どもたちは園内外で学びを深めています。

これからも多くの皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。(城戸)